

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

以下の文中において、当第 1 四半期連結会計期間及び当第 1 四半期連結累計期間を当第 1 四半期、前年同四半期連結累計期間を前年同期、前連結会計年度を前年度と記載しております。また、文中に記載しております為替影響は、米国ドル、ユーロ、英国ポンドを対象に前年同期の対円平均レートを当第 1 四半期の外貨建取引高に適用して試算しております。

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

#### 【第 1 四半期の決算概況】

(単位：億円)

	2014 年度 第 1 四半期 〔2014 年 4 月 1 日～ 2014 年 6 月 30 日〕	2015 年度 第 1 四半期 〔2015 年 4 月 1 日～ 2015 年 6 月 30 日〕	前年同期比	
				増減率(%)
売上収益	10,686	10,650	△35	△0.3
営業利益 (営業利益率)	72 (0.7%)	△273 (△2.6%)	△346 (△3.3%)	-
金融損益	10	18	7	70.6
持分法による投資利益	20	86	65	320.9
税引前四半期利益	104	△168	△272	-
親会社所有者帰属 四半期利益	68	△189	△257	-

#### 【損益の状況】

売上収益は 1 兆 650 億円と、ほぼ前年同期並みとなりました。国内は 3.1%の減収です。システムインテグレーションやサーバ関連が増収になりましたが、ネットワークプロダクトやパソコンが減収になりました。海外は 3.6%の増収です。北米向けネットワークプロダクトや欧州向けパソコンが減収になりましたが、為替影響があり増収になりました。米国ドルに対し円安が進行したことなどにより、前年同期比で約 300 億円の売上収益の増加影響がありました。海外売上比率は 42.6%と、前年同期比 1.7 ポイント上昇しました。

営業利益は 273 億円の損失と、前年同期比 346 億円の悪化となりました。ネットワークプロダクトやパソコンで減収影響があったほか、米国ドルに対するユーロ安の進行により欧州拠点で米国ドル建の部材調達コストが上昇した影響や、国内ネットワーク事業で従業員の再配置等に係る一時費用の計上がありました。

金融収益と金融費用をあわせた金融損益は 18 億円と、為替差損益を中心に前年同期比 7 億円の増益となりました。持分法による投資利益は 86 億円と、前年同期比 65 億円の増益となりました。中国の深圳証券取引所に上場している関連会社の公募増資に伴い持分変動利益を計上したほか、システム L S I の設計・開発事業を関連会社(株式会社ソシオネクスト、2015 年 3 月事業開始、議決権比率：当社 40%、パナソニック株式会社 20%、株式会社日本政策投資銀行 40%)へ移管したことによります。

この結果、税引前四半期利益は 168 億円の損失と、前年同期比 272 億円の悪化となりました。

親会社の所有者に帰属する四半期利益は 189 億円の損失と、前年同期比 257 億円の悪化となりました。

## ①主要製品別売上収益

（単位：億円）

	2014年度 第1四半期 〔2014年4月1日～ 2014年6月30日〕	2015年度 第1四半期 〔2015年4月1日～ 2015年6月30日〕	前年同期比	
				増減率(%)
テクノロジーソリューション	7,080	7,188	108	1.5
サービス	5,805	6,112	307	5.3
ソリューション/S I	1,939	2,113	173	9.0
インフラサービス	3,865	3,999	133	3.5
システムプラットフォーム	1,275	1,076	△199	△15.6
システムプロダクト	501	551	49	9.9
ネットワークプロダクト	773	524	△249	△32.2
ユビキタスソリューション	2,689	2,432	△256	△9.5
パソコン/携帯電話	1,864	1,516	△347	△18.7
モバイルウェア	824	916	91	11.1
デバイスソリューション	1,352	1,499	147	10.9
L S I	690	805	115	16.7
電子部品	663	697	33	5.1

(注) 1. 売上収益にはセグメント間の内部売上収益を含みます。

2. 「L S I」の売上収益には、「電子部品」への内部売上収益を含めて表示しております。

3. 「その他/消去又は全社」には、次世代スーパーコンピュータ事業、当社グループ会社向け情報システム開発・ファシリティサービス事業及び当社グループ従業員向け福利厚生事業等のほか、基礎的試験研究等の戦略費用及び親会社におけるグループ経営に係る共通費用が含まれております。

## ②セグメント情報

(単位：億円)

		2014年度 第1四半期	2015年度 第1四半期	前年同期比	
		〔2014年4月1日～ 2014年6月30日〕	〔2015年4月1日～ 2015年6月30日〕		増減率(%)
テクノロジー ソリューション	売上収益	7,080	7,188	108	1.5
	国 内	4,182	4,231	49	1.2
	海 外	2,898	2,957	59	2.0
	営業利益 (営業利益率)	114 ( 1.6%)	△40 ( △0.6%)	△154 ( △2.2%)	-
サービス	売上収益	5,805	6,112	307	5.3
	国 内	3,320	3,506	185	5.6
	海 外	2,484	2,606	121	4.9
	営業利益 (営業利益率)	131 ( 2.3%)	99 ( 1.6%)	△32 ( △0.7%)	△24.4
システム プラット フォーム	売上収益	1,275	1,076	△199	△15.6
	国 内	861	724	△136	△15.9
	海 外	413	351	△62	△15.1
	営業利益 (営業利益率)	△17 ( △1.3%)	△139 ( △13.0%)	△122 ( △11.7%)	-
ユビキタス ソリューション	売上収益	2,689	2,432	△256	△9.5
	国 内	1,821	1,551	△269	△14.8
	海 外	868	881	13	1.5
	営業利益 (営業利益率)	87 ( 3.2%)	△76 ( △3.1%)	△163 ( △6.3%)	-
デバイス ソリューション	売上収益	1,352	1,499	147	10.9
	国 内	679	738	59	8.7
	海 外	672	760	87	13.1
	営業利益 (営業利益率)	33 ( 2.5%)	107 ( 7.1%)	73 ( 4.6%)	219.5
その他/ 消去又は全社	売上収益	△435	△469	△34	-
	営業利益	△162	△263	△101	-
連 結	売上収益	10,686	10,650	△35	△0.3
	国 内	6,310	6,116	△193	△3.1
	海 外	4,376	4,533	157	3.6
	営業利益 (営業利益率)	72 ( 0.7%)	△273 ( △2.6%)	△346 ( △3.3%)	-

海外売上比率	40.9%	42.6%	1.7%
--------	-------	-------	------

## 【セグメント別の状況】

当第 1 四半期のセグメント別の売上収益（セグメント間の内部売上収益を含む）及び営業利益は以下のとおりです。

## ＜事業別＞

## テクノロジーソリューション

(単位：億円)

売上収益は 7,188 億円と、前年同期比 1.5%の増収になりました。国内は 1.2%の増収です。サービスは、システムインテグレーションが金融分野や公共分野で顧客の投資拡大により増収となりました。また、インフラサービスも堅調に推移しました。一方、システムプラットフォームは、サーバ関連が PCサーバを中心に伸長したものの、携帯電話基地局などのネットワークプロダクトは、当第 1 四半期が顧客投資の端境期でもあり、減収となりました。海外は 2.0%の増収です。サービスは、米州が低調でしたが、豪州やアジアは伸長しました。また、前年同期に比べ円安が進行した影響もあり増収になりました。一方、システムプラットフォームは、北米向け光伝送システムが通信キャリアの当社関連セグメントに関する投資抑制が続き減収になりました。

	2015 年度 第 1 四半期	前年同期比
売上収益	7,188	1.5 %
国内	4,231	1.2 %
海外	2,957	2.0 %
営業利益 (営業利益率)	△40 ( △0.6 %)	△154 ( △2.2 %)
＜売上収益内訳＞		
サービス	6,112	5.3 %
システムプラットフォーム	1,076	△15.6 %
＜営業利益内訳＞		
サービス	99	△32
システムプラットフォーム	△139	△122

営業利益は 40 億円の損失と、前年同期比 154 億円の悪化となりました。サービスは増収効果があるものの、I S P 事業の拡販対策費用の増加などにより減益となりました。システムプラットフォームは、減収影響に加え、国内ネットワーク事業の従業員の再配置等に係る一時費用約 50 億円の負担があり悪化しました。

## ユビキタスソリューション

(単位：億円)

売上収益は 2,432 億円と、前年同期比 9.5%の減収になりました。国内は 14.8%の減収です。パソコンが OS の製品サポート終了に伴う買い替え需要が前年度の第 1 四半期で一巡した影響により減収となりました。海外は 1.5%の増収です。パソコンは欧州拠点の販売台数が減少しましたが、モバイルウェアが欧州、アジア向けなどで増収となったほか、為替の影響もありました。

	2015 年度 第 1 四半期	前年同期比
売上収益	2,432	△9.5 %
国内	1,551	△14.8 %
海外	881	1.5 %
営業利益 (営業利益率)	△76 ( △3.1 %)	△163 ( △6.3 %)

営業利益は 76 億円の損失と、前年同期比 163 億円の悪化となりました。パソコンが減収影響を受けたほか、米国ドルに対しユーロ安、円安が進行したことにより欧州及び国内拠点で米国ドル建の部材調達コストが上昇した影響がありました。

## デバイスソリューション

(単位：億円)

売上収益は 1,499 億円と、前年同期比 10.9%の増収になりました。国内は 8.7%の増収です。L S I がスマートフォン向けを中心に増収となりました。海外は 13.1%の増収です。L S I、電子部品ともに為替の影響がありました。

	2015 年度 第 1 四半期	前年同期比
売上収益	1,499	10.9 %
国内	738	8.7 %
海外	760	13.1 %
営業利益 (営業利益率)	107 ( 7.1 %)	73 ( 4.6 %)

営業利益は 107 億円と、前年同期比 73 億円の増益になりました。前年度に実施した L S I の基盤ライン再編による固定費の低減効果のほか、米国ドルに対し円安が進行したことにより米国ドル建の輸出売上が増加した影響がありました。

## その他／消去又は全社

営業利益は 263 億円の損失と、前年同期比 101 億円の悪化となりました。I o T (注) の活用基盤としての次世代クラウドや、未来医療などの分野で戦略投資を拡充していることによります。

(注) I o T (Internet of Things) : パソコンやサーバなどに留まらず、様々な物がインターネットに接続され、情報交換する仕組み。